

第6編 教育委員長あいさつ

教育委員長あいさつ



三次市教育委員会
委員長
前田 茂

時の経過は過ぎ去ってみれば早いもので、平成の年号が制定されてから、いつの間にか早20年が経過しました。この20年間に何があったのだろうと懐古することしきりに思うところであります。少子高齢化の波を直接に被っている中山間地域は、いまだ活路を見い出せないまま沈黙している現状があります。加えて、昨年アメリカ合衆国から端を発した世界金融不安は一気に世界経済不況を喚起しました。このことは、文化・教育面においても著しく影響を及ぼしていると思います。

私は、そうした現実の中で、日本人の感性やアイデンティティは、原状回復に向けて、非常に有効かつ精神的意義を持っていると思う一人であります。

この三次を中心とする地域において、学校を良くしていこう、学校を地域の宝にしていこう、青少年が健全に育つように地域が積極的に関わりを持つとうという地域の教育力が、やがては活性化につながり、再生に向けた団結力が生まれてくると思います。この地域の草の根的精神が次代に継承され、個性豊かな文化・教育が醸成されるよう期待して止みません。

国においては平成21年4月から学習指導要領を見直して、幼稚園、小学校、中学校で移行期間を迎え、新しい教育内容がスタートします。新学習指導要領では、知・徳・体のバランスのとれた力を養うことで変化の激しいこれからの社会を生きぬく力をつけていく、そのためには、ことばの力をつける、理数の力、外国語活動を積極的に取り組む、伝統や文化教育を充実させる、規範意識や思いやりの心を育成する等、前進的な意図を強くしています。

これからの子どもの教育が充実・進歩していくことは将来の日本、そして地域の発展と意識的高揚に欠くことのできない要素であると強く感じるものであります。どうかご理解と絶大なるご協力ご支援を切にお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。